

ごあいさつ

インド・東南アジアで出会った生命の輝き

～ 旅の筆跡が導いた 祈りの色彩 ～

《 令和8年1月6日（火）～3月15日（日）》

三橋節子は1967年12月に、京都市立美術大学（現在の京都市立芸術大学）の同窓生による美術教育研究会が実施したインド・東南アジア古美術研修旅行に参加しました。

それまでの節子は、自然の中に咲く草花や美しい樹木を画題として作品を描き続けてきましたが、この研修旅行をきっかけに画風が大きく変化しました。

旅行を通じて生まれた絵画はインドやカンボジアの美しい自然を描いたものではなく、街角に佇む人々を描いた作品でした。とりわけ太陽の恵みと大地のエネルギーを受けて逞しく生きる現地の子供たちを描いた作品であり、人間の生命力の根源がテーマとして表現されています。

節子は冷徹な観察力と優れた記憶力を持ち合わせており、帰国後に制作した「カンチプラムの路上」や「インドの子供たち」は現地を訪れた際の情景をそのままに描かれた作品ですが、その後に描かれた「炎の樹」や「遠い瞳」は、研修旅行で得られたいいくつかのものを組み合わせて表現されており、独自の美の世界が作りあげられています。

今回の展示は三橋節子の画業に大きな影響を与えた異文化との出会いをテーマに、当館所蔵のインド・東南アジアに関する全作品を展示いたします。

さらに、特別展示として三橋節子のご実家のご協力を得まして「カンボジアの少女」を初公開いたします。

また、常設コーナーでは、野草を描いた作品や近江むかし話などを題材とした作品を展示し、三橋節子の世界観を感じていただける構成となっています。

異文化との触れ合いを通して生み出された三橋節子の芸術をご堪能いただけますと幸いです。

三橋節子美術館